



2018秋田県水と緑の森林祭



現在の状況

秋田県水と緑の森づくり税事業内容



活動年度	税事業	植栽本数	森づくり税事業の活用実績
2014	1回目	100	県民提案事業
2015	2回目	100	県民提案事業
2016	3回目	100	県民提案事業
2017	4回目	100	県民提案事業
2018		100	←森林祭により実施
2019	5回目	100	県民提案事業
2020	6回目	(コロナのため中止)	森林ボランティア活動支援事業
2021	7回目	(コロナのため中止)	森林ボランティア活動支援事業
2022	8回目	100	森林ボランティア活動支援事業
2023	9回目	100	森林ボランティア活動支援事業
2024	10回目	100	森林ボランティア活動支援事業
合計		900	

広告

「2018 あきた水と緑の森林祭」でホオノキの植樹が行われました。



お手伝いしていただいた地元のボランティアの皆さまと記念撮影 (2018年7月7日撮影)



7月7日、「2018あきた水と緑の森林祭」(秋田県、美郷町、県緑化推進委員会主催)が開催され、その催しの一つとして、公益社団法人東京生薬協会も加わり、生薬の原料となるホオノキの植樹を行いました。「龍角散」発祥の地として知られる秋田県美郷町は、同協会と「薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定」を結んでおり、豊かな自然と恵まれた環境を生かして薬用植物の栽培を進めています。植樹は、2012年に栽培協定を結んで以来「生薬の里」を目指して続けているもので、今回で5回目となります。



植樹作業の様子

美郷町ではこれまで生薬の原料となるカンゾウやキキョウなど5種類を栽培しており、毎年秋に収穫するキキョウが「龍角散」の製造に使われるなど、順調に生育しています。6日、美郷町内の薬用植物試験圃場で成長の様子を見学・視察した後、収穫したキキョウの根の洗浄や皮むき作業を体験。町農政課職員がブラシで洗浄や皮むきをした根を同会員が



薬用植物試験圃場で成長様子を視察した後、収穫したキキョウの根の洗浄や皮むき作業を体験。



すでに原料として供給されることが決まっている皮むきされたキキョウ。



写真左から) 東京生薬協会会長・龍角散社長 藤井隆太氏、2018 ミス日本みどりの女神 竹川智世さん、中島英史副知事、松田知己美郷町長

手伝ったり品質を確認したりしました。翌7日、美郷町の大台野広場で開催された森林祭開会式では秋田県の中島英史副知事が「豊かな緑の財産を未来に引き継ぐ思いが広がることを願います」と挨拶。その後、旧花岡スキー場で行われた植樹祭には、松田知己美郷町長や東京生薬協会藤井隆太会長(龍角散社長)、2018ミス日本みどりの女神の竹川智世さんをはじめおよそ200人が参加しました。今回植樹したのはホオノキの苗150本。土壌改良のために炭の粉を混ぜた土に穴を掘り、参加者は1本1本丁寧にホオノキを植えました。ホオノキは皮の部分が「厚朴」という生薬になり、便秘や消化不良などの薬に使われますが、生薬として使えるようになるには約20年がかかります。今年の秋に収穫するキキョウはすでに原料として供給されることが決まっています。今後ますます本格的な出荷を目指して、薬用植物の試験栽培を進めていきます。

秋田県美郷町。みさと 生薬の里をめざして。

生薬の振興と、保健衛生、公共福祉に貢献して65年。東京生薬協会 公益社団法人東京生薬協会

昭和28年、生薬の間屋、メーカー、薬局によって設立され、すぐれた生薬の確保と振興、保健衛生や公共福祉に貢献。おもに東京都薬用植物園の管理、薬用植物などの栽培、研究、漢方薬・薬草などに関するイベントを通じて、広く皆様に情報発信しています。

MISATO 秋田県美郷町

奥羽山脈のすそ野に位置する美郷町。清流と豊かな土壌に恵まれ、秋田県有数の穀倉地帯としても知られています。高温多湿な夏、豪雪の冬という四季の移ろいの中でラベンダー畑や六郷のカマクラ行事など自然を生かした見どころが多いのも特徴です。

植樹事業について 町有林への薬樹の植樹を行い、癒しの里づくりに寄与します。また、植樹作業や参加者同士の交流を通じて、町有林が果たしている役割や働きについて理解を深め、森林環境と地域の憩いの場の大切さを改めて認識するとともに、緑豊かな環境づくりへの関心を高めることを目的とします。平成26年から毎年100本を超えるホウノキの苗を植えています。